

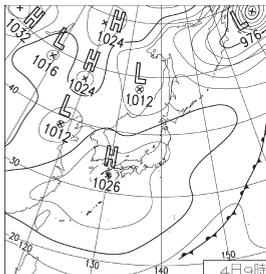
日々の天気図

— No. 50

2006年3月

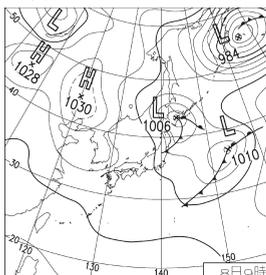
- 9日、前線と低気圧の影響で沖縄県宮古島市下里57.0 mm/hの激しい雨。
- 12日～13日、強い冬型気圧配置、新潟県妙高市関山77 cm/24hの降雪。
- 17日～20日、低気圧の発達により、各地で強風。静岡県南伊豆町38.5 m/s、青森県八戸市35.7 m/sの突風。東京都大手町33.4 m/sは3月の極値。

(気象庁予報部予報課)



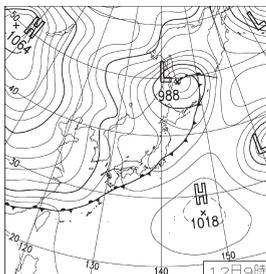
4日(土) 移動性高気圧

東・西日本は高気圧に覆われ晴れ。北日本は気圧の谷が通り所々で雨や雪。気温は北日本は平年並み、東・西日本は低く2月上旬～中旬並み。長崎県五島市でモンシロチョウ初見。



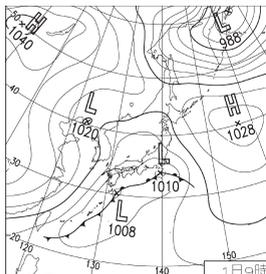
8日(水) 北日本に低気圧や前線

北日本は雨や雪。南西諸島も気圧の谷の影響で曇りや雨。高気圧に覆われた東・西日本は晴れて4月上旬～中旬の暖かさ。奈良市でツバキが開花。



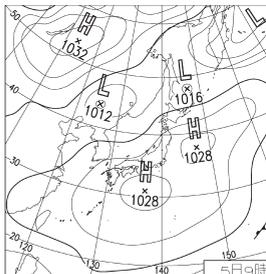
12日(日) ウメの開花 東北へ

寒冷前線が通り、北日本は雪や曇り、その他の地域も関東の一部で晴れた他は雨や曇り。東京大手町で最大瞬間風速北西26.5 m/s。福島県いわき市でウメ開花。



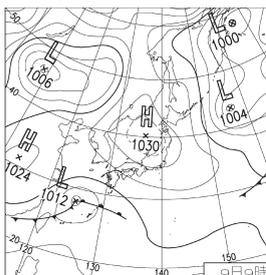
1日(水) 深い気圧の谷

南岸を前線を伴った低気圧が東進。中国東北区にも上空の気圧の谷。全般に雨で北日本では雪の所も。各地、真冬並みの最高気温。気象庁の数値予報用コンピュータ更新。



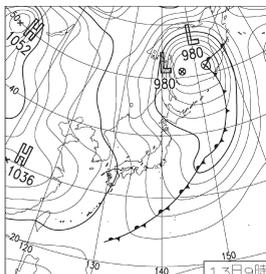
5日(日) 穏やかな晴れ

南海上から高気圧に覆われ、北日本の一部で雨や雪の他は、各地晴れ。気温は全国的に高く3月中旬～4月上旬並み。京都市で平年より14日遅くウメ開花。



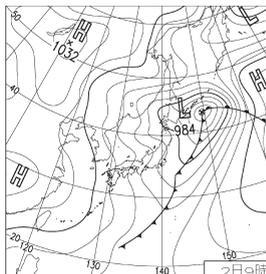
9日(木) 沖縄県で激しい雨

南西諸島や九州南部は雨。その他の西日本、東海、関東南部は曇り。北海道日本海側は曇りや雪。その他は概々晴れ。沖縄県宮古島市下里で57 mm/1hの非常に激しい雨。



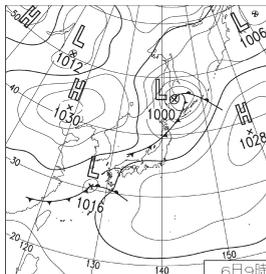
13日(月) 強い冬型

黄海、東シナ海、日本海を寒気に伴う対流雲が覆う。山陰～北陸にかけ、50 cm/24 h以上の降雪。日中の気温は全国的に真冬並み。新潟県妙高市関山で77 cm/24 hの降雪。



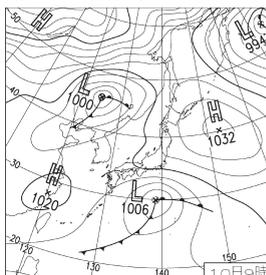
2日(木) 冬型の気圧配置

西日本を中心に寒気流入、東シナ海～日本海西部には寒気に伴う対流雲が発生。西日本の最高気温は、ほぼ真冬並み。埼玉県熊谷市、岡山市で平年より20日前後遅くウメ開花。



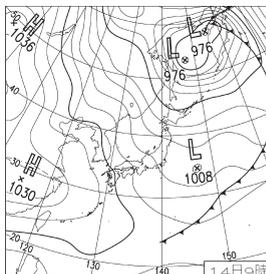
6日(月) 関東 春一番

日本海北部からサハリン付近に低気圧が進み、南の高気圧からの南西風がやや強く吹いた。最大瞬間風速は、横浜市21.9 m/s、千葉市21.6 m/s、東京大手町21.3 m/s。気温も上昇。



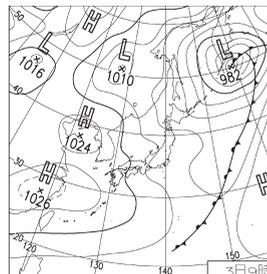
10日(金) 関東 真冬並みの気温

南海上を低気圧が東進。東北南部～近畿は曇り、太平洋側を中心に雨。その他は晴れ。最高気温は関東で真冬並みだが、九州等では平年より5°C前後高く4月上旬～中旬並み。



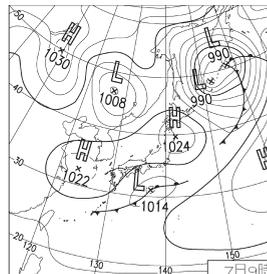
14日(火) 冬型続く

鳥取県米子市上空約5300 m付近には-35°C以下の寒気。日本海側中心に雪。その他は曇りや晴れ。新潟県魚沼市入広瀬で45 cm/日の降雪。



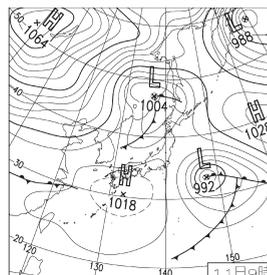
3日(金) 北海道上空-40°Cの寒気

札幌市上空5200 m付近に流入、北日本は雨や雪。冬型の気圧配置で西日本の日本海側～北陸も雨や雪。その他は曇りや晴れ。15時までに北海道網走支庁滝上町で30 cm/24 hの降雪。



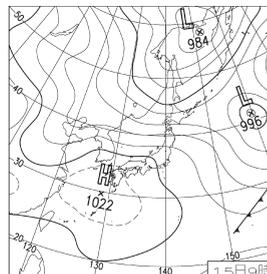
7日(火) 関東 北東風で曇り

朝、西日本の所々で霧やもやを観測。全国的には曇れたが、関東は北東風の影響で曇りや雨。晴れた西日本では3月下旬～4月上旬の暖かさ。



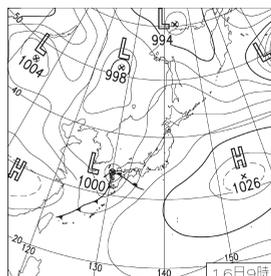
11日(土) 山陰では今年初の黄砂

南海上に高気圧、沿海州には低気圧があって東進。北海道、東北北部で雨の他は概々晴れ。全国的に気温が高く、3月下旬～4月下旬並み。北日本、北陸では平年より10°C高い所も。



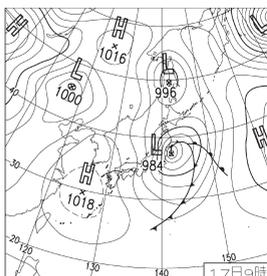
15日(水) ソメイヨシノ開花

東シナ海の高気圧に覆われる。北日本は曇り一部で雨や雪、その他は晴れ。ほぼ全国的に平年並み～4月上旬の気温。高知市で平年より8日早くソメイヨシノ開花、一番乗り。



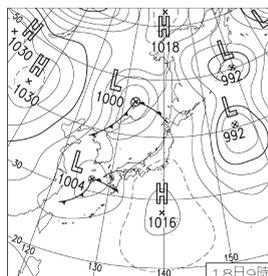
16日(木) 温かい雨

低気圧が九州から西・東日本に進む。西日本は朝から雨、東日本は午後から次第に雨。全国的に平年並みか平年より3~5℃高い気温。富山市で平年より12日遅くウメ開花。



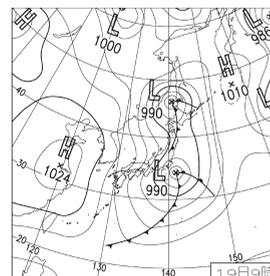
17日(金) 春の嵐

低気圧が発達しながら本州を通過、全国的に強風が吹き荒れた。所々で最大瞬間風速が30 m/sを超え、東京大手町では西南西32.0 m/sを観測。静岡市でソメイヨシノ開花。



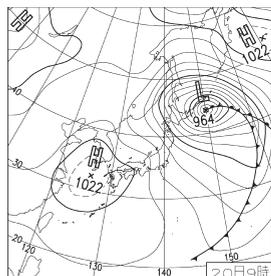
18日(土) 二つの低気圧 東進

沿海州と東シナ海から低気圧が東進。北日本は曇り、西日本から雨が降り出し東日本も順次雨に。宮崎県でソメイヨシノ開花。新潟市でヒバリの初鳴。



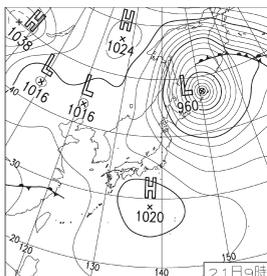
19日(日) 東京大手町風極値更新

深い気圧の谷に入り全国的に曇りや雨。南岸の低気圧が発達、東京大手町で最大瞬間風速北北西33.4 m/s、3月の極値を更新。東京都八丈町でソメイヨシノ開花。西日本に黄砂。



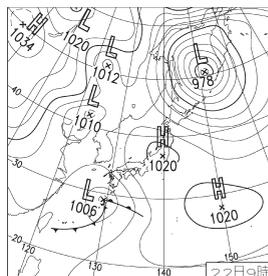
20日(月) 北日本大荒れ

千島近海で低気圧が急激に発達。北日本中心の強い冬型。青森県八戸市で最大瞬間風速西北西35.7 m/s、15時までに群馬県みなかみ町みなかみで32 cm/24 hの降雪。



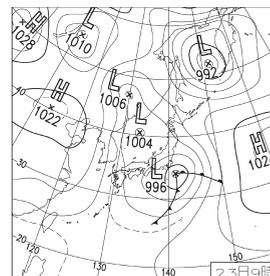
21日(火) 東京ソメイヨシノ開花

北海道は冬型続くが、日本の南から高気圧に覆われ、東日本や東北は晴れ。関東は2~4℃平年より高い気温。東京都千代田区で平年より7日、昨年より10日早い開花。



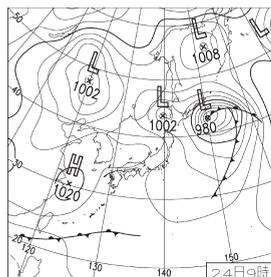
22日(水) 西から雨

低気圧が奄美諸島から西日本の南岸を東に進み、東海まで雨に。鹿児島県上屋久町で119 mm/24 hの大雨。広島市、長崎市でソメイヨシノ開花。



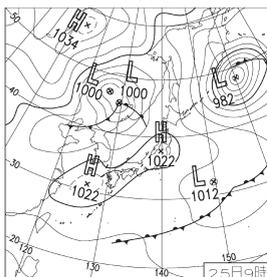
23日(木) 低気圧本州南岸を東進

北海道の一部で晴れた他はほぼ全国的に曇りや雨。午後は四国や九州も晴れに。平年より3~5日早く長崎県対馬市、福岡市、佐賀市、大分市、三重県尾鷲市でソメイヨシノ開花。



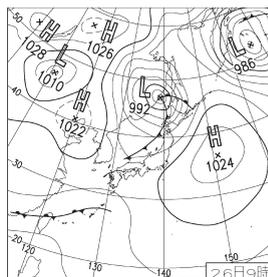
24日(金) 高知市満開も一番乗り

東・西日本は高気圧に覆われ概ね晴れ。関東は空気が乾燥し、東京大手町、埼玉県熊谷市で最小湿度10%。高知市で平年より8日早くソメイヨシノ満開。



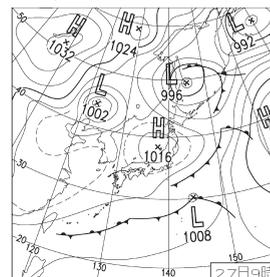
25日(土) 東・西日本ほぼ晴れ

東北と東シナ海の高気圧に覆われる。北海道は気圧の谷の影響で曇り。関東も沿岸の一部初め曇り。その他は概ね穏やかに晴れて気温は4月上旬~中旬並みの所も。熊本市で黄砂。



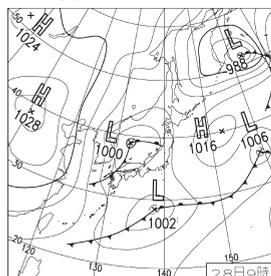
26日(日) 日本付近 気圧の谷

沿海州の低気圧から延びる寒前冷線が北日本を通過。東シナ海には前線が停滞。北日本や九州で雨の他は概ね曇り。名古屋、岐阜市、島根県浜田市でソメイヨシノ開花。



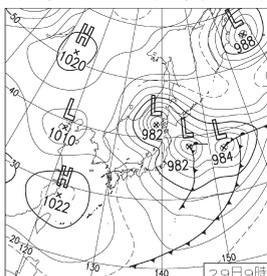
27日(月) 大分県南部 震度5弱

北海道北部は曇りや雪、南西諸島は曇りや雨。その他は概ね晴れて4月上旬~中旬の気温。高松市、徳島市、神戸市、京都市、埼玉県熊谷市でソメイヨシノ開花。静岡市は満開。



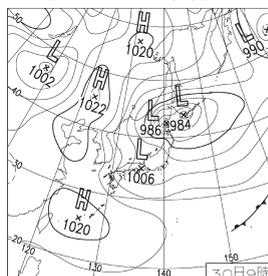
28日(火) 東京ソメイヨシノ満開

低気圧や前線が本州を通過、西日本で雷雨の他は曇りや晴れ。和歌山県串本町潮岬で竜巻、南西諸島・山陰では黄砂を観測。東京都千代田区で平年より8日早い満開。



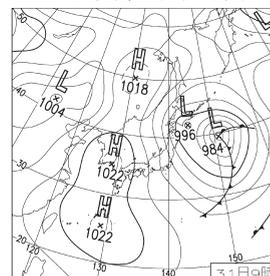
29日(水) 北日本で低気圧発達

北日本は暴風雪。また、北陸や西日本の日本海側も風が強く雪や雨の荒れた天気。17時までに北海道上川支庁南富良野町幾寅で70 cm/24 hの降雪。宇都宮市でソメイヨシノ開花。



30日(木) 八丈島でひょう

近畿の低気圧の上空には約5300 m付近で-30~-35℃の季節外れの寒気があり大気の状態は不安定。日本海側中心に所々で雪や雨。東京都八丈町で午後に1 cmのひょう。



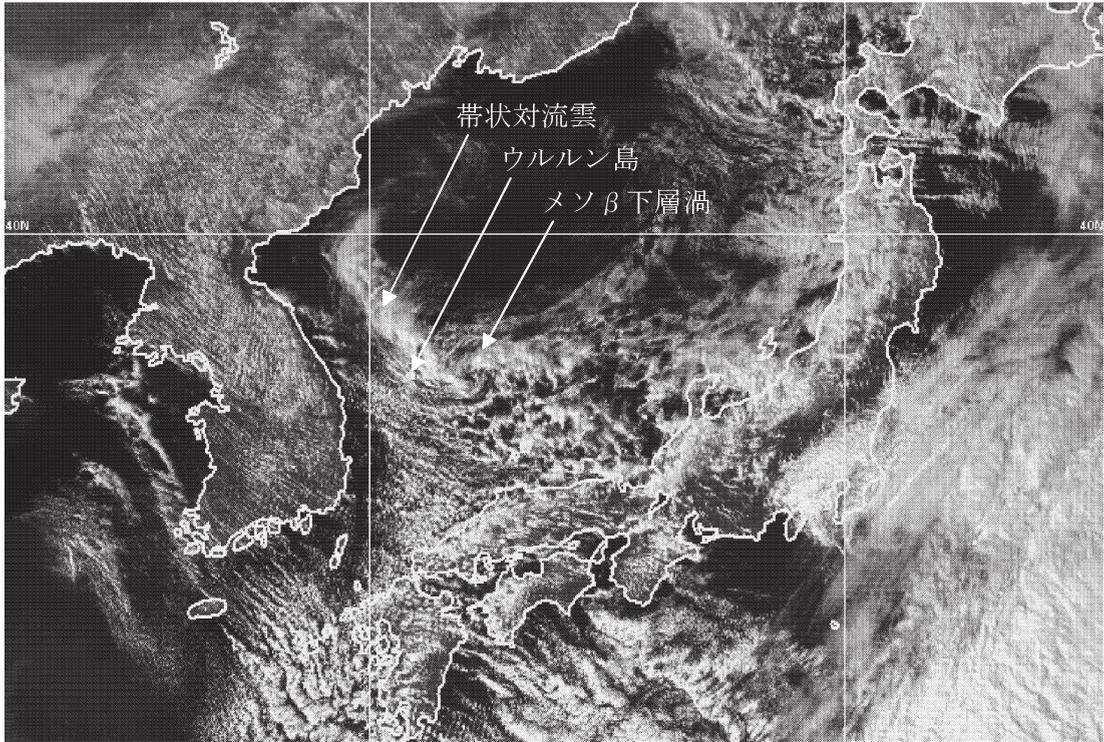
31日(金) 日本海側中心に雪

日本の東海上に低気圧、西日本に移動性高気圧。北海道や北陸、東北の日本海側は雪、太平洋側は晴れ。西日本も晴れ。群馬県みなかみ町みなかみで74 cm/24 hの降雪。



今月のひまわり画像—2006年3月

帯状対流雲に発生したメソβ下層渦



2006年3月2日15時の可視画像

冬になると日本海には寒気の吹き出しに伴って筋状の対流雲列が現れる。その中でも朝鮮半島の付け根付近から、日本海中・西部にかけて現れる幅の広い対流雲列が見られることがある。これは「帯状対流雲」と呼ばれ、朝鮮半島にある山岳の影響により、風下の日本海に局地的な収束帯が形成されるため、帯状の対流雲列が発生すると言われている。

画像は3月2日15時の可視画像である。日本海西部には帯状対流雲が見られ、帯状対流雲上のウルルン島(韓国)の東には、小さな渦巻き状の雲域も見られる。この小さな渦巻き状の雲域は、大きさがメソβスケー

ル(200~20 km程度)に属する下層の渦で、「メソβ下層渦」と呼ばれている。このメソβ下層渦は渦巻きの形状が時間の経過と共にしだいに明瞭となってきており、15時頃が最盛期であった。

一般に帯状対流雲には、発達した雄大積雲や積乱雲が伴っているため、その先端がかかる山陰や北陸では海岸や平地でも大雪となることがある。特にメソβ下層渦を伴っている場合は、メソβ下層渦が通過する際に、突風や雷を伴い局地的な大雪を降らせることがあるため注意が必要である。

(気象衛星センター)